

【9月28日（月）放送朝礼の話】

皆さん、おはようございます。久しぶりの朝礼です。

二週間以上前のことになりますが、9月12日。大坂なおみ選手が、テニスの4大会の一つ「全米オープン」の女子シングルスで、優勝しました。

決勝では、強敵のビクトリア＝アザレンカ選手に最初のセットを奪われましたが、劇的な逆転勝ちを果たして優勝しました。本当に素晴らしい試合でした。大坂選手がこの大会で優勝するのは2年ぶり2回目です。無観客での大会でしたが、試合後、大坂選手はコートにあおむけの状態になって、静かに空を見上げていました。「多くの偉大な選手がこうして試合後に空を見上げていた。どんな景色が見えるのかと思ったけれど、本当に素晴らしい瞬間だった」と後で語ったそうです。

大坂選手は、大阪市内で、ハイチ出身の父と日本人の母の間に生まれ、3歳からアメリカに移り住みました。大坂選手は、5月にアメリカで起きた、白人警察官の暴行が原因で黒人男性が亡くなった事件を受けて、デモに参加するなど、人種差別に対して積極的に抗議活動をしてきました。

今大会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、無観客試合でしたが、選手には入場時のマスクの着用が求められていました。そこで、1回戦から決勝までの7試合で、差別による黒人被害者の名前が入った7枚のマスクを1枚ずつ付けて、人種差別がなくなるようにとメッセージを発信しました。マスクを付けて試合に勝ちあがることで、もっと人種差別への関心を広められたらとの思いが、今大会での大坂選手の強さを後押ししたと思います。

試合後のインタビューで、マスクに込めた思いを聞かれると、逆にインタビュアーにこう問い返しました。「さて、あなたが受け取ったメッセージは何でしたか？」と。

皆さんは、大坂なおみ選手の行動から、どんなメッセージを受け取りましたか？

人種差別とはいかなくても、皆さんの周りに差別はありませんか？

他の人のことを、馬鹿にしたり、仲間外れにしたり。いやな言葉を投げかけたり、悪口を言ったり。これらは、全て「差別の心」が根っこにある人の行動です。差別の心が許されると、そこはみんなが安心して過ごせる場所ではなくなってしまいます。差別を受けているのが自分ではなくても、そんな環境にいと、周りにも差別の悪い空気が広がってしまい、居心地の悪い場所になってしまいます。

自分たちの居場所であるクラスを、みんなが安心して気持ちよく過ごせる場所にするために、クラス全員で「差別やいじめを絶対に許さない」という空気を作るのです。これは、担任の先生だけが作るものではありません。自分たちのクラスは、自分たちの手で良くしていくのです。「正しいことは正しい。悪いことは悪い」と正しく判断できる心をしっかりと持って、担任の先生と一緒に、みんなが笑顔で安心して過ごせるクラスを作ってください。

今のクラスの友達と過ごせるのも、あと半年です。3月の修了式の日、6年生は卒業式の日、「自分のクラスが最高！」と思えるクラスを、みんなで協力して作り上げましょう。

以上で校長先生のお話を終わります。朝晩は、気温が低くなってきました。風邪などひかないよう、体調管理に気をつけて過ごしましょう！